

科目名	自立活動の指導の実際 展開編 (S)				B
	サブタイトル	教育としての文化の伝承は自立活動へのアプローチとならないのか			
実務経験のある教員による授業科目					
対象学科	人間科学部 心身健康科学科				
担当教員	西郷建彦				
担当教員の実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。				
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。				
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位	
授業形態	講義 実習				
アクティブラーニング	有				
授業方法	面接授業				
資格等 関連科目					
科目コード	B150S				
科目区分	こころとからだの関係				
使用教材	教科書	・『新しいうんどう「課題のうんどう」』、西郷建彦（著）、「ジダイ社」、2025年 出版予定（出版されない場合はテキストとして資料を準備する。）			
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel（著） 矢谷令子／小川恵子（訳）、「医学書院」、1993年、第4版			
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの課題に対するアプローチを扱う。子どもたちに応じた課題の学習内容の理解と方法などの習得を図る。また、「課題のうんどう」の学習内容に、実際の課題を適切に加えることによって、課題に向けての指導プログラムが作成できることを学ぶ。				
テキストの内容 及びアドバイス	本書は、子どもに応じた課題に関する学習内容について、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるように構成されている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 テキストの「課題のうんどう」から子どもに応じた課題に繋がる学習内容を選び、課題を適切に加えて課題に向けての指導プログラムを作成し、実際に子どもたちに行ってください。				
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、子どもたちに応じた課題に向けての指導のあり方と指導プログラムの作成及び方法を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における課題に向けての指導ができるようにする。				
行動目標 到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「課題のうんどう」の自立活動における位置づけを説明できる。</li> <li>②「課題のうんどう」の自立活動における意義を説明できる。</li> <li>③自立活動における課題に向けての指導プログラムが作成できる。</li> <li>④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。</li> <li>⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。</li> <li>⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。</li> <li>⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。</li> <li>⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。</li> <li>⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。</li> <li>⑩神経生理学的な配慮を持って、子どもにアプローチできる。</li> </ol>				
卒業認定・学位授与 の方針と本科目の 関連					
ディプロマポリシー との関連	大学	人間総合科学大学は、建学の精神・教育理念に基づき、科学的能力と実践的能力を統合し、以下のような能力と資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学位を授与する。  1. 全学共通のコア科目を通したリベラル アーツ教育  ■ 現実社会を「よりよく生きる」ための、洞察力、共感力、創造力、表現力、自己教育力、生涯学ぼうとする意欲、豊かな人間性			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な社会的責任感、異文化理解、情報処理力、自己実現力、他者への思いやり、コミュニケーション力などの資質</li> </ul> <p>2. 専攻する学部・学科の専門科目を通じた医療・健康・食・栄養の専門職教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門職としての、専門的な知識・技能を体系的に修得</li> <li>社会貢献に必要な、問題解決能力、チームワーク力、リーダーシップ能力、プレゼンテーション能力、AI・データサイエンス（リテラシーレベル）の基礎力</li> </ul>																
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、人間の総合的な理解を基に、人々の健康に関する多様な職業について、自立と共生の精神をもって自身のキャリアを形成できる能力を身につけたものに学位を与える。各学科のディプロマ・ポリシーで具体的に示されている①知識・技能、②汎用的技能、③態度・志向性、④総合的な学修経験と創造的思考力を身につけたものに学位を授与する。</p>																
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p>																
カリキュラムポリシーとの関連	<p>人間総合科学大学は、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る</li> <li>人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る</li> <li>様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る</li> <li>多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う</li> <li>現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る</li> </ol>																
	<p style="text-align: center;">人間科学部</p> <p>人間科学部では、次の方針に基づいて教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>専門的知識・技能と物事に対する幅広い視点や理解を得る</li> <li>人間に係る科学を学際的に統合し、人間の総合的理解、心身の相関性の理解を現代社会に応用できる能力を得る</li> <li>様々な専門知識を統合し、自身や社会、職業上の問題関心と関連付けて問題解決を図る能力を得る</li> <li>多様な学修経験・方法を通じて、専門的職業人および社会の一員として、自立と共生のこころを培う</li> <li>現代社会、企業で活かすことのできる、AI・データサイエンスの基礎力（リテラシーレベル）を得る</li> </ol>																
	<p style="text-align: center;">心身健康科学科に関連する項目</p>																
評価方法・基準	<p>評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。</p>																
課題に対するフィードバックの方法	<p>スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。</p>																
スクーリング履修における授業準備(予習・復習)の具体的な内容及びそれに必要な時間	<p>【予習】 教科書を精読する。また、疑問点を整理しておく。(1コマ2時間程度)</p> <p>【復習】 教科書を見ながら、自分で体験する。(1コマ2時間程度)</p>																
スクーリング履修での講義内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">授業計画</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">時限</th> <th style="width: 40%;">学習内容</th> <th style="width: 30%;">キーワード(重要語句)</th> <th style="width: 20%;">担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1時限</td> <td>新しいうんどうの指導内容と自立活動の方程式</td> <td>新しいうんどう」の中での「課題のうんどう」の位置付けを明確にし、方向性とプログラム作成の手順を学ぶ。  全体/学習過程(作る・使う)/姿勢/移動/操作/言語</td> <td style="text-align: center;">西郷建彦</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2時限</td> <td>移動①</td> <td>移動のために使う下肢と移動動作の基礎となる寝返りを扱う。</td> <td style="text-align: center;">西郷建彦</td> </tr> </tbody> </table>	授業計画				時限	学習内容	キーワード(重要語句)	担当教員	1時限	新しいうんどうの指導内容と自立活動の方程式	新しいうんどう」の中での「課題のうんどう」の位置付けを明確にし、方向性とプログラム作成の手順を学ぶ。  全体/学習過程(作る・使う)/姿勢/移動/操作/言語	西郷建彦	2時限	移動①	移動のために使う下肢と移動動作の基礎となる寝返りを扱う。	西郷建彦
授業計画																	
時限	学習内容	キーワード(重要語句)	担当教員														
1時限	新しいうんどうの指導内容と自立活動の方程式	新しいうんどう」の中での「課題のうんどう」の位置付けを明確にし、方向性とプログラム作成の手順を学ぶ。  全体/学習過程(作る・使う)/姿勢/移動/操作/言語	西郷建彦														
2時限	移動①	移動のために使う下肢と移動動作の基礎となる寝返りを扱う。	西郷建彦														

		屈曲伸展切り替え運動／立ち直りの連鎖反応／体軸内回旋／下肢	
3時限	移動②	寝返りから腹臥位、立ち上がり、立位と連続した内容と歩行を扱う。  立ち直り反応／バランス反応／対称性頸反射／陽性支持反応／寝返り	西郷建彦
4時限	操作①	手指、前腕部および上肢全体を扱う。  手指と前腕部／上肢	西郷建彦
5時限	操作②	手指動作としての、握り、放し、リーチ、つまみを扱い、認識に関連する手についても学ぶ。  握り／放し／リーチ／つまみ／手と脳	西郷建彦
6時限	中枢性障害への言語指導	教育として中枢性障害の言語指導はできるか。また、言語に関わる部分の構造と機能、さらにアプローチの仕方を学ぶ。  発声／口唇音／舌音（舌先音・舌背音・舌根音）／構音	西郷建彦
7時限	言語①	言語に関わる前頸部、顔面部を扱い、摂食機能との関連も学ぶ。  発声／嚥下／両唇音／取り込み	西郷建彦
8時限	言語②	言語に関わる舌部、顎部を扱い、摂食機能との関連も学ぶ。  発語／押しつぶし／構音／咀嚼	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今期より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。		
方略	まずは、触れ方、動かし方、ゆらし方の正しい基本手技を再度意識して行うこと。次に、ポイントとなる箇所を明確に意識しながら、ここでは特に動きに関する正しい基本手技を使ってお互いに役割（子ども側、教師側）を交代しながら体験していく。この際施行される側（子ども側）になった時に感じたことを大切に。ややもすると施行する側（教師側）に力点が置かれやすいが、あくまでも手修は施行される側（子ども側）であることを忘れないでほしい。		
連絡事項	「課題のうんどう」から選択する学習内容は、担当している教師の観察上の根拠によるもので良い。万が一効果が現れないときは、中間評価の時に、「課題のうんどう」から選択する学習内容を検討してほしい。その中で、また観察する力や基本手技の力も増すはずである。とにかく繰り返し実践してほしい。ポイントになる箇所については、参考書などを使い、解剖学的、生理学的な視点も育てるようにする。		